政策コメンテーター報告（第3回、意見照会期間：2015年4月1日～4月15日） 武山政直：慶應義塾大学経済学部教授

質問事項		記述式回答
経済再生と両立する財政健全化		
1	以下の二つの取組について、先進的な取組事例や具体的な取組のご提案がございましたら500字以内でご記入ください。 ①公的サービスの質の向上と歳出効率化に向けた、国民・企業・自治体等の自発的な取組を促すようなインセンティブ改革 ②これまで行政が担ってきた公的分野について民間の多様な主体との連携を促進することにより、その創意工夫と民間資金の活用を図る「公的部門の産業化」	①英国では、Design Councilのような諮問機関やNestaのような公的基金が中心となって、中央や地方政府における国民（＝ユーザ）参加の公共サービスのイノベーション（質の向上と歳出効率化）のための各種の支援（サービスデザインやサービス評価スキルの導入、サービス改革プロジェクトのための資金提供、関連のリサーチやコンサルティグ、グローバルな連携等）を行なっており、民間のイノベーションの発想や手法の公共部門への移転が進んでいます。また中央政府内にも民間の専門家を登用した公共サービス改革のためのラボやプロジェクトチームが発足し、サービスデザインや政策立案プロセス改革を国民にアピールすることで、国家的な改革に向けての機運を高めています。我が国にもこれらの事例が参考になると思われます。 ②英国政府の資金提供により、民間の公共サービスデザインのエージェンシーがソーシャル・スタートアップを支援する取り組み（シードマネーの投資とアクセラレータプログラムの提供）を行なっています。我が国でも同様の支援を行うNPOの活動がありますが、このような取組みを政府としても促進していくことが期待されます。
2	2020年度の財政健全化目標を堅持することとしておりますが、その道筋についてご意見がございましたら500字以内でご記入ください。	